

## 「子育て世代」に聞いてみた、 自治会ライフを豊かにするコツ

～ 大人も子どもも集えば楽しい！ ～

取材・文：市民ライター 高橋 三千代

都筑が丘第2自治会（会長 小林 英紀 氏）は、意欲的に活動する「イベントサークル部」を有する。同部の年始イベントに参加し、子育て世代ならではの取り組みについて伺った。

### 都筑が丘第2自治会イベントサークル部 総務 吉野 太 さん

「楽しく自治会に参加する大人の姿が、子どもたちの成長の糧にもなる」と吉野太さん。withコロナにありながら、集えば楽しい！ イベントサークル部のバージョンアップを牽引する。



### 自治会の伝統行事を繋いできた祭事の サポート組織「イベントサークル部」

小正月行事「どんと焼」のお焚き上げの炎が上がるなか、都筑が丘第2自治会の皆さんが「家内安全」「疫病退散」を祈願する。その後大人たちは雑煮を振る舞うために、昔ながらの杵と臼を使っての餅つきに熱が入る。周りでは笑顔の子どもたちが、羽根つき・ゴム鉄砲・竹とんぼ等に興じる。

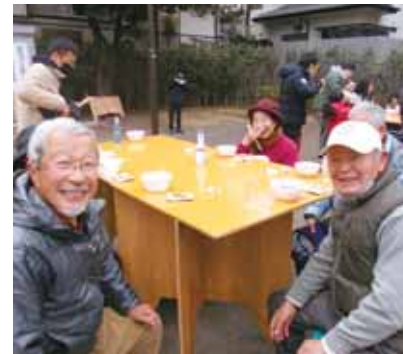
「餅つき・夏祭り・芋煮会をメインとしたイベントサークル部は、自治会の役員だけでは実施が大変だった祭事サポートの役割を担って10余年の歴史があります。懐かしい遊び道具は、イベントサークル部メンバーの表具屋ひょうぐさんに頼みました」と同サークルの吉野太さん。自らも二人の子どもの父親だ。川和町に越してきてすぐに、近所の先輩会員の声かけをきっかけに入部した。「会社以外のコミュニティに参加することで、多世代や異業種の方々と交流でき、心の拠り所ができました」と振り返る吉野さんには、部

内に頼もしい仲間もいる。

「役職3名は皆50代で、職場でも裁量を任せられ、働き方も自由な世代。柔軟に時間を作れ、子育ても一段落し、活動しやすい面があります。」



メインイベントの餅つきを見守る小林自治会長



お雑煮を囲む地域の皆さん



懐かしい遊び道具の使い方を表具屋さんに教えてもらう



けん玉遊びに挑戦

### 「ノーコミュニティ・ノーライフ」

ここ数年イベントサークル部は、感染症対策に配慮して祭事を催している。特に夏祭りは、規模はコンパクトにしながらも多くの家族参加があり、成功を収めた。

「久しぶりにお神輿みこしをまつり、焼き鳥や牛のしぐれ煮などの飲食物をテイクアウト形式にして、お家でも楽しめるような配慮をしました」と同部会長の平澤満男さん。

「やるのであれば対策を取ってしっかりやったほうが良い、という諸先輩方の声の後押しになりました」と、自治会とイベントサークル部の密な連携を語る吉野さん。また部内の先輩・後輩の関係性は上下関係ではなく、発言がしやすいフラットなものであると明かす。そんな関係性が伝わってくるのが、皆で着用している吉野さんデザインの「ノーコミュニティ・ノーライフ」のロゴ入りTシャツだ。「デザインは、活動拠点の都筑が丘第三公園から見える、晴れた日の山々をモチーフにしました。」

### 子どもも大人も楽しむ 新時代のイベントを恒例行事に

イベントサークル部は、withコロナにふさわしい新しい形のイベントを模索し、秋の夜長を楽しむ「T2オータムナイトフェスタ」も企画した。「大人も子どももチケット制とし、いすを持参してもらってキャンプファイヤーやアコースティック

ギターを200人位で楽しみました。好評だったのが、手持ち打ち上げ花火やナイアガラの滝花火。いずれも知り合いの花火問屋さんをお願いして、安全に密を避けての実施となりました」と語る吉野さん。気候の良い時期に、ニューフェイスのイベントを恒例化できればと考えている。

### 多くの世代が自治会を 居場所にしてほしい

子育て世代や現役世代も是非自治会に加入して居場所作りをしてほしいと話す吉野さん。

「自治会ライフがあることで、ただ住む以上の価値をここに感じます。大人も子どもも集えば楽しい！私たちが楽しんでいる姿を見て、『自分もちょっとやってみようかな』と思ってもらえたら嬉しいです。」



左からイベントサークル部会計の市川さん、平澤会長、会長代行の小森さん、総務の吉野さん